

<雑録>東北鑛山學會，東北鑛山技術會採鑛部會

| | |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 著者 | 竹内 常彦 |
| 雑誌名 | 東北大學選鑛製錬研究所彙報 |
| 巻 | 6 |
| 号 | 2 |
| ページ | 262-262 |
| 発行年 | 1951-03-25 |
| URL | http://hdl.handle.net/10097/32055 |

を回収し残りを空氣攪拌により5%程回収する。その成績は上表のごとくである。

空氣攪拌槽は直列に連結する。屑鐵消費は坑内、銅量の1.5倍、坑外、銅量の2倍である。月産13 t Cuである。

この外、朱山、永松鑛山から簡単な報告があり、仙臺通産局鑛山部からは東北地方は全國沈澱銅産額の75~80%を占める旨發言あり今後の活躍が要望された。また管内主要鑛産物の全國に對する比率等についても説明があつた。

討論及び質疑應答

(足尾)猪俣一郎氏より「石灰投入による分別沈澱法」の研究の概要の説明があつた。即ち從來足尾鑛山においては放水の關係上石灰投入による水酸化銅沈澱法を採用してきていたが、他金屬も同時に沈澱するため銅品位は4~5%に止り、且水分多く(80%)乾燥にも問題があり、この處理が頗る困難であつた。これに對し分別沈澱では先ず少量の石灰でpHを5程度に止めて一次沈澱としてFe⁺⁺⁺を水酸化物として落し、さらにその後石灰を加え6.3程度に上げて二次沈澱として比較的Cuにとむ沈澱がえられる。既ち13% Cu程度となる。さらに二次沈澱を硫化劑で行えば39% Cuとなる。石灰の代りにCaCO₃を用いたときは一次沈澱は問題がないが二次沈澱に數倍量を要し不適であり、一次沈澱にCaCO₃、二次沈澱に硫化劑を用いたときは好結果がえられた。なおこの方法は近々中規模試験にかけられる。

これに對し龜田より石灰による同種實驗を行つた結果大體同様な結果がえられている發言があり、その他種々討論があつた。

また氷上克之氏からは沈澱銅の新しい用途についての講演があり、燒結合金への利用が示唆された。

このほか、(1)沈澱銅尾水の繰返し散水の問題(2)鐵屑沈澱法の化學機構、(3)空氣攪拌法の利點及び欠點、(4)杉葉の作用等について活潑な討論及び質疑應答があつた。

(なお本會は東北鑛山技術會主催、東北鑛山學會後援によるものである。)(龜田)

東北鑛山學會・東北鑛山技術會採鑛部會

(昭和25年10月24~26日……高玉鑛山)

出席者：堀口渡、木村岩藏(尾去澤)；谷内末吉(太良)；河野通俊(大宮)；橋本剛(荒川)；東海林眞澄(阿仁)；五十嵐省一郎(小坂)；高橋倉藏、須田昌平(花岡)；小島東郷、島谷朝也(松尾)；丸山哲男(三永)；中原猛、三浦清三郎(花輪)；中村鑛一(長木)；芹澤鑛一、長橋消次郎(吉乃)；上田鑛太郎(高旗)；五十嵐幸一(上北)；渡邊安藏(板谷)；伊藤秀、伊藤勝義(玉金)；佐藤盤男(川

口)；山崎福壽(永松)；池田雄二(土畑)；岡田靜雄(大土森)；宮崎武四郎(立又)；中村正(與内畑)；五十嵐善之丞(沼尻)；米本二郎、太田勇、山下則保、飯塚元喜、森 肇、島内修(高玉)；炭谷幸作(太平本社)；小澤太郎、安田宗一(太平新潟)；森忠太郎(太平仙臺)；増淵堅吉(別子仙臺)；山口勝巳(タンガロイ工業)；木村逸郎(新陽金屬)；鈴木良平(住友電氣)；伊藤博(住友電氣仙臺)；南坊平造(日本火藥)；増田信雄(日本火藥岩鼻)；鈴木一郎(日本火藥磐城)；新見政義(旭化成延岡)；野原尋夫(關東電氣)；村田勉(日本油脂武豊)；多田四郎(鑛業技術試験所)；水野進、小野田匡高、伊場野貢、津田哲七、相澤善英、三浦 享(仙臺通産局)；佐藤與助、鈴木簾三九、堀部富男、早川典久、庄司誠一、川島俊夫、富地信夫、遊佐周逸(東北大工學部)；小野健二、竹内常彦(選研)

(順序不同 敬稱略)

第1日午前8時~午後5時

挨拶 水野鑛山部長、米本高玉鑛山所長
高玉現況説明 太田採鑛課長、山下製鍊課長
高玉鑛山映畫上映 坑内見学
ビットに関する講演
キゲタロイビットに就て 鈴木良平
タンガロイビットに就いて 山口勝巳
ダイヤビットに就て 炭谷幸作

第2日午前8時~午後5時

東北鑛山學會總會

開會の辭 米本高玉所長
會長挨拶 小野選研所長(代理)
會務報告 鈴木教授
閉會の辭 太田課長

特別講演

最近の米國製ワンス・ビットに就て
鑛業技術試験所所長 多田四郎

ビットに関する實驗公開

研究發表及び各鑛山現況報告

排水用渦卷ポンプの吸收水頭に就て
川島俊夫、富地信夫
現況報告 尾去澤鑛山、太良鑛山、大宮鑛山、荒川鑛山、阿仁鑛山、小坂鑛山、花岡鑛山、松尾鑛山、三永鑛山、吉乃鑛山、高旗鑛山、玉金鑛山、川口鑛山

第3日午前8時~午後4時

鑛山用爆藥に関する講演

金屬鑛山に於ける電氣發破に就て 南坊平造
導火線同時點火具の説明及び實驗 増田信雄

長孔發破に就て 野原尋夫
爆藥と發破に関する斷想 村田 勉
爆力に影響する二三の因子に就て 新見政義

現況報告 土畑鑛山、立又鑛山、花輪鑛山、大土森鑛山、沼尻鑛山、與内畑鑛山

研究討論會

鑛山用機械の改善傾向に關して

挨拶 鈴木教授、水野部長、米本所長 (竹 内)